



春季大祭一回祭



春

春季大祭 齋行

好天に恵まれた四月一・二日の両日、平日ではあつたが多くの氏子崇敬者らで賑わうなか、恒例の春季大祭が仮本殿にて斎行された。

大祭に先立ち三月三十一日午後五時から総社地主祭、同六時からは宵宮祭を斎行、翌日からの大祭の無事斎行が祈念され、全神職はその夜参籠し、心身ともに清浄を期し大祭奉仕に備えた。

穏やかな春の陽射しに包まれた二日午前十一時、正服に威儀を正した高向官司以下神職、氏子奉幣使、鎮国寺住職、主基地方風俗舞保存会々員、浦安舞奉仕者、総代等が齋館前に列立し、祓舎で身を清め仮本殿へと参進。

高向官司が皇室の安泰、国家鎮護、五穀豊穰を祈念する祝詞を奏上、その後氏子会を代表し梶谷富士雄氏(宗



齋館前から参進する祭員・参列員



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

フィリピン・ルバング島で三十年間任務を遂行された元陸軍少尉・小野田寛郎さんが一月十六日、九十一歳で亡くなられた。実家は和歌山県海南市の神社である▼一昨年、小野田さんは宗像大社にも参拝されている。当日は体調も決してよくなかったが、参拝の姿勢は凜としていて、現役の陸軍少尉を彷彿させる雰囲気であった▼近年、靖国神社が外交問題に発展しつつあるが、小野田さんは終始一貫して靖国は国家が祀るべきとされ、晩年は英霊を代弁するような立場で、英霊を祀らない国家を恨むという発言をされていた▼戦後世代が多くを占める今日の社会では、当時の人々の深層心理は理解できないかもしれないが、国家のために命を捧げた人々からすれば、今の状況は全く理解不能ではないだろうか▼今や海外の靖国批判は内政干渉どころか、国家としてのモラルもない。本来、国際社会では宗教批判はタブーであり、これが一宗教であれば大変な事態を招いているはずであるが、神道のような多神教は包容力があるため、それを許してしまふ傾向がある。ただ、それは国内では通用しても、国際社会では全く違うものとなる▼外交は高度な交渉が求められるが、日本文化の基底となっている多様な価値観は、時と場合によっては事態を複雑化させる可能性があることを私達はよく理解しておくべきではないだろうか。(敬)

神具・装束・授与品
井筒

装束店 〒600-8503 京都市下京区油小路通六条上る
フリーダイヤル 0120-075-980
福岡店 〒812-0068 福岡市東区社領1-12-10-401
フリーダイヤル 0120-055-092
授与品店 〒601-8348 京都市南区吉祥院観音堂町23
フリーダイヤル 0120-075-820

木組の家 匠の技

株式会社 弘江組

〒811-3406 福岡県宗像市福元4丁目20 電話(0940)32-2567



氏子奉幣使 梶谷富士雄氏

像市朝町)により奉幣詞が奏上された。次いで、昭和天皇即位大嘗祭に由来する「主基地方風俗舞」が同保存会により奉納、更には十二単を身に纏った玄海中学校女子生徒により「浦安舞」が優雅に奉奏され、麗らかな神苑に悠遠な平安絵巻が繰り広げられた。

翌二日は、午前十一時より二日祭が斎行され、漁業関係者が多数参列のなか、海上安全、大漁満足を祈念された。祭典後にはみあれ祭や皇室への若布献上等、海洋神事における功労者に対し、当大社より感謝状と記念品が贈呈された。

その後、高宮、第二宮、第三宮、宗像護国神社へと、各神職・参列者が分候し春季大祭が斎行された。宗像護国神社祭では福岡県護国神社田村豊彦宮司をはじめ、宗像・福津両市の遺族等一〇〇余名が参列するなか、護国の英霊をお慰め申し上げると共に、氏子の幸福と恒久平和が祈念された。また同刻、儀式殿に於いては宗像大社交通安全講社祭が斎行され、講員皆様の今年一年の交通安全が祈念された。



地元中学生による浦安舞

各奉仕者、表彰者は次の通り
氏子奉幣使
梶谷 富士雄氏(宗像市朝町)

- 主基地方風俗舞奉仕者
- 【舞方】 清水 陽介 石津 典秀
 - 中野 久志 中野 正徳
 - 松井 実 菊本 兼二
 - 森 勝紀 永島 卓爾
- 浦安舞奉仕者
- 岩佐 静音 (玄海中学校二年生)
 - 中野 日夢
 - 白石 愛美
 - 中野友梨奈
- 海洋神事奉賛会事業功労者
- 河辺 幹夫 (宗像漁協・大島支所)
 - 古賀 健二
 - 前田 浩昌 (同・地ノ島支所)
 - 奥 佳寛 (同・福間支所)
 - 廣渡 紀之 (同・福間支所)
 - 廣渡 末夫 (同・福間支所)
 - 縄田 利男 (鐘崎漁協)
 - 石橋 敬

平成二十六年 春季奉納 剣道大会

四月六日、春季恒例の剣道大会が玄海中学校体育館にて行われ、小学生から中学生迄の剣士たち約二〇〇名が日頃の練習の成果を競った。

午前九時の開会式には、参加者・審判員・父兄等多くの人々が体育館に集合し、大会に先立ち当大社神職よりお祓いを受け、一同宗像大社を拝拝した。その後宗像居合道同好会有志の有段者六名による模範演技が披露され、緊張感のある演武者の佇まいに見学者も圧倒され、緊張の面持ちであった。

試合が始まると、日頃稽古で鍛えた成果を発揮しようと、掛け声を張り上げて相手に挑む豆剣士達の姿が印象的であった。体こそまだ小さいものの、必死の形相で相手に喰らいつく様子は一人前の剣士の姿であった。団体戦では昨年中学生団体の部で男女ともに優勝した城山中学校が今年も強さを見せ、男子は準優勝、女子は見事に優勝し連覇を果たした。

約五時間に渡る熱戦も午後二時には幕を閉じ、参加者の小中学生は自分の力を出し切った清々しい表情で体育館を後にした。



- 試合結果(優勝)
- 【団体戦】 自由ヶ丘剣道教室 (中学生) 男子 河東中学校 女子 城山中学校
 - 【小学生】 自由ヶ丘剣道教室
 - 【中学生】 男子 河東中学校 女子 城山中学校
- 個人戦
- 【小学生】 1年生 山本 未来(自由ヶ丘)
 - 2年生 元兼 沙幸(河東)
 - 3年生 宮川 海流(東部)
 - 4年生 清原 凜(玄辰館)
 - 5年生 大和 凌太(河東)
 - 6年生 井上 夏実(河東西)
 - 【中学生】 男子 阿部 凌真(玄辰館)
 - 女子 松井愛咲香(城山中)

沖津宮・中津宮 春季大祭 齋行

筑前大島で、五穀豊穡と豊漁を祈念

去る四月十三・十四日の両日、筑前大島に於いて沖津宮・中津宮の春季大祭が盛大且つ厳肅に齋行された。

十三日午後三時、翌日の大祭に先立ち地主祭を齋行。同五時沖・中両宮の宵宮祭が沖

津宮遙拝所と中津宮本殿に於いて執り行われた。

翌十四日、春うららかな晴天の中、午前八時半より宮崎区の厳島神社で、同九時半よりは大島最高峰の御嶽山々頂に鎮座する摂社御嶽神社にて



中津宮春季大祭～浦安舞奉奏～

春祭が執り行われた。同九時よりは島の北側に位置する沖津宮遙拝所にて、沖津宮春季大祭が齋行され、遙かに沖津宮を拝し、巫女による浦安の舞が奉奏された。

午前十一時、氏子・崇敬者を始め、島内外の参拝者多数参列のもと、中津宮春季大祭が齋行され、高向宮司が国家・皇室の弥栄と大漁満足、五穀豊穡を祈念する祝詞を奏上。次に島内の氏子を代表し、奉幣使として古賀達也氏が奉幣詞を奏上され、続いて巫女が神楽「浦安の舞」を奉奏し、各々玉串拝礼を行い祭典は滞り無く終了した。祭典後には、年間献魚・献品者に対して感謝状と記念品が贈呈された。

午後一時半より恒例の神賑行事、大島小学校生徒による「奉納子供相撲大会」が開催され、本年は大島の保育所の子供達十一名の特別参加もあり、境内には例年以上の大きな歓声が響き渡り、和やかな雰囲気の中に沖・中両宮春季大祭は幕を閉じた。大祭が終わると田植えや巻網漁が始まり、島内は慌しくなる。

尚、大祭準備に連日御奉仕頂きました沖・中両宮奉賛会(会長 沖西敏明氏)、同敬神婦人部(部長 河辺恒子氏)、同翼賛会(会長 遠藤三保氏)の皆様には、心より御礼申し上げます。

第35回 春季奉納 吟詠大会



氏子奉幣使 古賀達也氏 (右)



四月五日(土)、生憎の雨模様となるも、春季恒例の神賑行事である奉納吟詠大会(主催・鶴洲流、宗家・河野鶴聲)が開催された。この大会は昭和五十一年より奉納されておられ、今年で三十五回目を迎えることとなった。

午前十一時三十分、当大社仮本殿において会員六十二名が参集し、正式参拝並びに奉納吟が行われた。

奉納吟では国民道祖神の大神に、松口月城先生奉納の「宗像宮」を宗嗣・河野声洲氏が献吟、満開の桜の中境

内朗々と響き渡ると、多くの参拝者とその美声に聴き入り暫し足を止め深い感銘を受ける様子が見られた。

献吟後、一同は清明殿へと移動し式典が開会され、会員各々が順次日頃鍛えた自慢の喉で吟詠を披露された。午後四時には当大社における日程の全てを終えて、一同バスにて直会会場へと移動した。

「宗像宮」
松口月城
三神鎮座す宗像宮
天孫を擁護して仁徳崇し
神武皇謨之に依つて就る
肇国の大業之の中に成る
筑紫之山玄海之海
一山一水皇風を仰ぐ



仮本殿での奉納吟

鎮国寺「花まつり」

宗像大社から鎮国寺へ、稚児行列が進む

去る四月六日、鎮国寺「花まつり」の稚児行列が行われた。

鎮国寺の創建は古く、弘法大師空海が遣唐使船で大陸に向う途中、海上で大暴風雨に遭遇した。この危難を救わんと、大師はこの北海道中の守護神たる宗像大神をはじめ、

諸仏菩薩に祈願したところ無事入唐を果たした。帰朝後、弘法大師は神恩感謝の意を込め、先ず宗像大社へ参拝した。その折、屏風山に瑞雲が棚引くのを目にし、この山の岩窟において修行を始めたところ、「この地こそは鎮護国家の根本道場たるべき霊地」とのお告げを受け、ここに一字の寺を建立したと伝える。その後、当大社の神宮寺として栄えた名刹古寺である。近年は一年を



祈願殿前での記念撮影



仮本殿で玉串を捧げる稚児



鎮国寺に向う稚児行列

通じ四季折々の花を楽しめる名所としても知られる。

この「花まつり」は、桜・ツツジ・しゃくなげ等の花々が見ごろを迎える、三月下旬より約一ヶ月間、宗像観光協会主催により開催されている。この稚児行列も観光協会の企画によ

り、子供達に両社寺を身近に感じてほしいと、花まつりの期間中でお釈迦様の生誕を祝う法会の「仏生会」「灌仏会」等と呼ばれる、四月八日に近い日曜日に行われている。

当日、春めく青空の下、稚児装束を装った子供達約一四〇名は午前十時、宗像大社仮本殿にてお祓いを受け、大社氏子青年会・ボーイスカウトの誘導・警護により、総勢約三〇〇人の大行列を組み、鎮国寺までの約一キロの道のりを歩いた。

4月1日付で、神職2名が新たに奉職致しましたので、ご紹介致します

神職 新人紹介

- ①名前 ②生年月日 ③出身 ④経歴(学歴) ⑤特技(趣味)
- ⑥好きな食べ物 ⑦嫌いな食べ物 ⑧尊敬する人物 ⑨奉職理由 ⑩抱負



- よしただけ ともしひろ
- ①吉武 誠礼
 - ②昭和58年2月28日(31歳)
 - ③宗像市深田
 - ④県立 光陵高校
 - 福岡大学 経済学部経済学科
 - 國學院大學 神道学専攻科
 - 太宰府天満宮奉職(6年間)
 - ⑤野球・ゴルフ
 - ⑥肉・寿司
 - ⑦ブロッコリー
 - ⑧豊臣秀吉

- ⑨福岡大学卒業後、ご縁いただき、25歳まで育った地元の宗像に少しでも恩返し出来ればと思い奉職を希望しました。
- ⑩太宰府天満宮でご指導いただいたことを肝に銘じ、より一層、神明奉仕に励み、氏子地域の皆様方と共に、宗像大社また宗像市の発展に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



- くろかみ なおとよ
- ①黒神 直豊
 - ②平成4年1月16日(22歳)
 - ③山口県周南市
 - ④山口県立 徳山高等学校
 - 國學院大學 神道文化学部
 - 神道文化学科
 - ⑤野球…小学校から大学まで野球部に所属、ポジションはピッチャー
 - ⑥パスタ
 - ⑦きのこ
 - ⑧吉田松陰

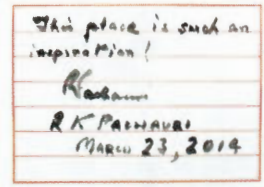
- ⑨社家(遠石八幡宮)に生れ、長男として跡を継ぐために神職を志しました。また、実家の神社でも宗像三女神をお祀りし、出光徳山製油所内に鎮座する宗像神社のお祭りも祖父や父がご奉仕していることもあり、奉職を希望しました。
- ⑩一つ一つ学び、神職として、また人としても成長し、胸を張って実家に帰れるように頑張りますので、ご指導よろしくお願いいたします。

IPCC議長 ラジエンドラ・パチャウリ氏 参拝

三月二十三日、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長のラジエンドラ・パチャウリ氏が当大社を訪れ、同席した中川雅治衆議院議員(元環境省事務次官)らと、仮本殿、高宮祭場を参拝し、神宝館なども拝観した。



音館前にて記念撮影 (パチャウリ氏は後列中央右)



「ここは大いに神を感じる場所だ」

三月二十三日、国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)議長のラジエンドラ・パチャウリ氏が当大社を訪れ、同席した中川雅治衆議院議員(元環境省事務次官)らと、仮本殿、高宮祭場を参拝し、神宝館なども拝観した。

帳も残される程、宗像に残る信仰に感銘を受けたようであった。同氏は多忙なスケジュールにもかかわらず、前日二十二日にインドより来日、当大社の向いにある「海

道むなかた館」にて、宗像市内の中学一・二年生の代表三十人を前に地球環境について講義を行い、「世界に変わってほしいと言う前に、まず自分が変わろう」とガンジーの言葉を贈った。

この講義は、今年五月三十日、六月一日に宗像で開催される、各界の第一人者百人を国内外より招請して環境問題を話し合う「宗像国際環境100人会議」のプレイベントとして行われた。神社に到着されると、まず高向宮司と歓談され、神社が長年守り伝えてきた「鎮守の杜」や、当大社の沖ノ島や高宮祭場に残る日本独自の自然崇拜、神道の持つ価値観について興味深く聞き入っておられた。

パチャウリ氏寄稿文

宗像の地を訪れて

ラジエンドラ・パチャウリ

宗像に訪問する二週間前から出張が続き、疲労が残る中、三月二十二日夜、宗像に到着。ホテルですぐに睡眠と休息をとったが、暗闇の中で不思議な美しい輝きを放つ宇宙のエネルギーを感じることができた。

そして翌朝、海辺に横たわる松林が広大な海に溶け込んでいる風景に心打たれ、宗像大社に崇高なる喜びと心の中から湧きでる平安を覚えつつ、厳かな気持ちで祈りを捧げた。

ここは日本人の魂をこの世の永遠の命の源である天照大御神に結びつけるところであり、その娘の三女神が祀られている。そして、遙か彼方の宗像の聖地、沖ノ島も見ることができた。

私はこの世の全ての宗教の神の存在を信じるが、神道の自然への深い畏敬の念は精神を特別に高揚させるとともに、世界は自然を崇拜する価値観を持つ必要があると思う。

今回の宗像訪問は私の人生の心の道しるべになるだろう。そして、再び宗像の地を訪ねることを大変楽しみにしている。

要約・文責宗像大社

時満ちて道ひらく

造営日記 ⑥

本殿塗装の

掻き落とし完了

三月末に既存塗装(漆塗・丹塗・胡粉塗)の掻き落としが完了し、四月からは塗装の下地作業が進められています。今回は掻き落としが済んだ本殿一部分を掲載致します。



本殿妻側懸魚



本殿高欄



本殿柱の掻き落とし作業



本殿妻側・東面

(続)

浜の寄物

288

いしただし



太宰府天満宮の近くにある「天遠館」(太宰府市太宰二丁目七番三九号)をご存知だろうか。太宰府駅を降りて参道の突当り、正面に五卿ゆかりの延寿王院がある。右手の

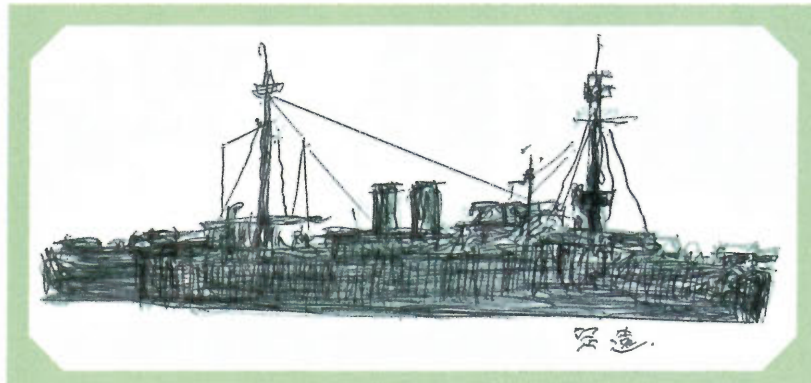
奥が光明禅寺、左手が心字池、太鼓橋を渡って天満宮にいたる。光明禅寺側の参道の右手に土塀で囲まれた一面があり、石門、赤く錆びた鉄扉には数ヶ所の破れ穴、リベット(鉄接手)がある。太宰府は多くの参拝客や観光客で賑わうが、この鉄扉に気付く人はほとんどいない。この破れ鉄扉こそが、今から一二〇年前の日清戦争時の清国北洋水師(艦隊)旗艦定遠の艦材で造られた門扉である。

十四・五KT、三十・五cm砲四門、艦体中央や前部に配置。同型艦は鎮遠。大事な機関部、弾薬庫には、分厚い三十六cm、二十六cmの鋼鉄で覆われ、無比の強艦と称されていた。

この水師提督(指令長官)が丁汝昌で旗艦定遠に座乗、北洋水師の全指揮をとっていた。北洋水師は日本に二度にわたって親善訪問をした。明治十九年(一八八六)と明治二十四年(一九一)で長崎と横浜である。定遠と鎮遠の巨艦と二千

七級の鋼鉄艦四艦を従えて、巨大な艦姿に日本中が驚愕し戦いた。それに二巨艦の姿である。第一砲塔は艦首の最先端に、艦首の側面には龍の彫刻装飾をほどこし二本のマスト、二本の煙突、艦首の下には、するどく尖った触角(ラム)がつけられ、それで当たって相手の艦を撃破するものであった。

日本訪問の表面上の理由は親善訪問であったが、恫喝、威圧訪問を目的としていた。日本を弱小国と見縊り、清国との間に朝鮮問題があり、東シ



定遠は当時の東アジアにあって最強最大の鋼鉄砲塔艦(戦艦)であった。定遠の要目を紹介すると、明治十五年(一八八二)ドイツ・フルカン造船所で建造された。排水量七、四三〇t、全長九十一m、速度

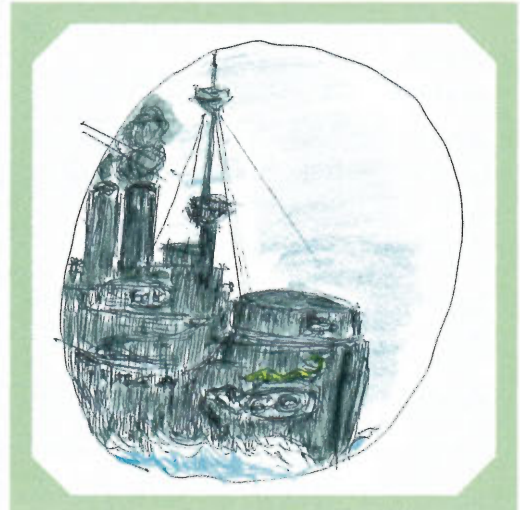


定遠館の鉄扉

の訪問であった。ドイツから最強艦を購入手しそれを見せびらかして圧力をかけようとしたもので、艦の操作、海軍(水兵)達の教育も不十分であった。この事は日清戦争の黄海海戦、威海

衛海戦で証明された。親善訪問と称しながら清国水兵の質の悪さは、長崎で起った「支那水兵暴行事件」(長崎事件)につぎるであろう。

明治十九年八月十三日長崎に上陸した清国水兵五名が貸座敷で乱暴を働き、清国水兵一人が逮捕された。十五日には清国水兵約三〇〇名が、二十名、三十名ずつ組をなくして上陸し長崎の警察署数ヶ所を襲撃、日本側に死者二名、負傷者二十九名、清国側に死者五名、負傷者四十六名が出るといふ事件である。親善にきて乱暴狼籍を働くとは前代未聞である。日本国民は激怒した。



宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日×切



宗像市 日の里 秋吉 嘉範

蔵開きかや葺き屋根をくぐり抜けバツカス招く匂ふ酵母よ
心が浮き立つような蔵開き。酵母の匂いの具体が良い。結句は「〜酵母がに。」

うきは市 浮羽町 向 則正

片耳にピアスの青年井戸を掘るパイプ埋めて通水始む

描写が丁寧。上の句・下の句を入れかえパイプ埋め通水始める
井戸掘りの青年の耳にピアスが光ると、ピアスを強調してみた。

宗像市 多禮 早川 祥三

曲水の庭に流るるひらがなの大和ことばにはなゆるるらん
曲水の宴の歌を大和ことばと思つた感性は魅力的だが
どこかに、「歌」の一語が欲しい。

福津市 若木台 野間 精一

確定申告会場に妻に手を引かれ来りたり久し振りなりこの緊張感
確定申告に来て、久しぶりの事務手続に緊張し高揚す
る作者か。二句から作者の体調もわかる。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

長かりし昭和と思ふ施設に来て要介護の文字カルテに書きつつ
要介護になった自身を思い、若かった昭和の日々の出
来事を思い反し懐かしむ作者。

福津市 若木台 山崎 公俊

をちこちの桜だよりを聞く日々にこの神苑は樟のみの森
神苑の豊かな雰囲気がよく出ている、作者は花が無い
ことを寂しく思っているようにも見える。

宗像市 土穴 山本 静子

形よき白雲流れて大空のあすはひひなか里暮れゆく
気分の良い春の夕暮れの景。四句は雛祭のことと思
うが漢字表記にすると分かりやすい。

宗像市 田久 卷 桔梗

ラジオから「君といつまでも」流れきてテケテケテケ髪くろくなる
曲の流行った当時に気持ちの戻る作者。四・五句では黒
髪に戻るようだ表現しては。

宗像市 日の里 大和美由紀

淡雲の溶けたる庭に百舌の来て囁くごとく囁り始む
百舌は高鳴きもするが、多彩な声の持ち主。結句で百
舌の声を可愛く思っていると分かる。

福津市 星ヶ丘 佐々木和彦

落日の輪は赤赤とかがやきて下部より海に溶け始めたり
丁寧な描写で詠まれ、夕陽が目に見えるよう。結句の
表現に作者の個性が見える。

宗像市 池田 森 龍子

金物の梯子は納屋に掛りしまま幾春過ぎん梅は満開
使われぬ梯子を使っていた人や場に、想像がふくらむ。
作者の思いもそこにあるのでは。

北九州市 戸畑区 田中ハツセ

生きておれば百三才の友がくれし木にろう梅の花が咲きたり
蠟梅の花に、亡き友を思う作者。四句（蠟梅の木に）と
すると言葉の流れが良くなる。

福津市 花見が浜 佐藤 純一

平安の光源氏は吾と同じ卒都婆小町に歌いいるらし
時代を越え、老いの無慚を考える時が誰にでもあると
言いたい作者か。「卒塔婆小町」の成立年代は南北朝時代。

◆選者詠

いつまでも口にのこれる山椒の香に締めりゆく晩春の身は
老い母の介護者会議に出席し勞われをりキーパーソンわれ

宗像市 武丸 白土 凌一

俳句作品集

春来てや小川にふなの郡を見る
宗像市 多禮 早川 祥三
山茶花の落ちて地蔵のよだれ掛け
宗像市 日の里 石松 弘次
春寒や甘酒を飲む夕べかな

5月祭事暦

- 1・15日 月次祭
午前10時〜高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
- 午前11時〜総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)
- 5日 五月・浜宮祭
午前10時30分〜浜宮祭
於=宗像市神湊 浜宮
午前11時〜五月祭
於=宗像市江口 五月宮
- 27日 沖津宮現地大祭
午前7時 大島港 出港
於=沖ノ島・沖津宮

編集後記

お願い、父が子を「思い」飾られる鯉幟が、風になびく景色が目に残ります▼先日大島にて、汚下(よ)これ(ヘド)ロのようなものがまわりついた漁網を漁師さんに見せて頂いたのですが、沖ノ島近海では近年、この時期に海中で汚れが発生し、一〜二週間仕事(漁)にならないそうです。沖ノ島周辺に限らず、磯焼けや、温暖化などでとれる魚・時期が変わったとの声は耳にしますが、実状を目にし、海の環境は日々悪化していることを実感させられました▼今号掲載のチャウリ氏参拝に付随しますが、五月末日、各界・各国の有識者が集い、地球の未来・環境について協議する「宗像国際環境100人会議」が行われ、当大社も参拝されます▼悪化の一途を辿る自然環境改善に向け、当地宗像で行われる会議が未来に「思い」をつなぐものになることを願いたい。(鈴)

発行所 宗像大社事務所・宗像会

住所 千八一一三五〇五
福岡県宗像市田島二三三二
電話 (〇九四〇)六一三二二(代)
発行人 葦津幹之
編集人 大塚宗延・鈴木祥裕
制作・印刷 セネラルアサヒ

毎月1日発行 定価1年送料共 1,000円